

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅲ (人体の構造と機能)		柔道整復学科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位 (34時間)	必須	尾尻 義彦
授業の概要				
生理学の過去問題と問題集にある解説を、教科書に沿って学習する。 授業進行に応じて、適宜中間試験を実施する。				
授業終了時の到達目標				
生理学の過去問題の解答を理解し、問題の周辺領域を含めて理解できるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	A 成長に伴うからだや運動能力の発達		
2	17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	A 成長に伴うからだや運動能力の発達		
3	17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	B 競技者の生理学的特徴・変化		
4	17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	B 競技者の生理学的特徴・変化		
5	国試模試の生理学	解答と解説		
6	国試模試の生理学	解答と解説		
7	国試模試の生理学	解答と解説		
8	国試模試の生理学	解答と解説		
9	国試模試の生理学	解答と解説		
10	国試模試の生理学	解答と解説		
11	国試模試の生理学	解答と解説		
12	国試模試の生理学	解答と解説		
13	国試模試の生理学	解答と解説		
14	国試模試の生理学	解答と解説		
15	国試模試の生理学	解答と解説		
16	国試模試の生理学	解答と解説		
17	期末試験	解答と解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
生理学 改訂第4版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 波末一之編集 南江堂  国家試験過去問題集徹底攻略 2023柔道整復師用 学校法人明治東洋医学院編集委員会編 医道の日本社		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ (人体の構造と機能)		柔道整復学科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位 (34時間)	必須	宮崎 刀一
授業の概要				
柔道整復師になるにあたって必要な解剖学の知識を学習する。十分な演習を通じて知識の定着を目指す。授業では板書、配布レジェメをおもに使用する。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師になるにあたって必要な解剖学の知識を学習する。十分な演習を通じて国家試験に必要な十分な知識の定着を目指す。 臓器の構造だけでなく機能にも触れて相互理解を深めていく。				
回	テーマ	内容		
1	解剖学概論	細胞小器官 DNA RNA		
2	骨	骨学		
3	筋	筋学		
4	呼吸器系	肺、気管支、呼吸の仕組み		
5	消化器系総論	口腔 咽頭 食道		
6	消化器系各論	胃 腸 肝臓 膵臓		
7	消化器演習	消化器全般		
8	脈管系総論	主要な動脈 心臓 循環		
9	脈管系各論	動脈の枝 静脈		
10	脈管系演習	脈管系全般		
11	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱		
12	生殖器系	男性生殖器、女性生殖器		
13	泌尿器、生殖器演習	泌尿器消化器全般		
14	内分泌系総論	内分泌器官		
15	内分泌系各論	ホルモンの働き		
16	期末試験	期末試験		
17	試験解説	試験解説、まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
解剖学 改定第2版		中間試験 期末試験	40.0% 60.0%	期末試験、出席率、授業態度を総合的に評価する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅱ(人体の構造と機能)		柔道整復学科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位(34時間)	必須	関矢 政之
授業の概要				
運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目標とする。				
回	テーマ	内容		
1	運動学Ⅱ1	顔面および頭部の運動		
2	運動学Ⅱ2	面および頭部の運動		
3	運動学Ⅱ3	姿勢の分類		
4	運動学Ⅱ4	立位姿勢の制御		
5	運動学Ⅱ5	歩行周期		
6	運動学Ⅱ6	歩行のエネルギー代謝		
7	運動学Ⅱ7	歩行のエネルギー代謝		
8	運動学Ⅱ8	異常歩行		
9	運動学Ⅱ9	バイオメカニクスの基礎理論		
10	運動学Ⅱ10	スポーツおよびトレーニング動作のバイオメカニクス		
11	運動学Ⅱ11	神経組織の成熟		
12	運動学Ⅱ12	歩行運動		
13	運動学Ⅱ13	歩行運動		
14	運動学Ⅱ14	運動学習		
15	運動学Ⅱ15	総復習		
16	運動学Ⅱ16	期末試験		
17	運動学Ⅱ17	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 運動学		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学Ⅱ (疾病と障害)		柔道整復学科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位 (34時間)	必須	富田 秀司
授業の概要				
一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習する。				
授業終了時の到達目標				
臨床医学一般に関する知識の習得				
回	テーマ	内容		
1	一般臨床Ⅱ1	医療面接		
2	一般臨床Ⅱ2	視診・打診		
3	一般臨床Ⅱ3	聴診・腹診		
4	一般臨床Ⅱ4	検査法		
5	一般臨床Ⅱ5	呼吸器疾患		
6	一般臨床Ⅱ6	循環器疾患		
7	一般臨床Ⅱ7	消化器疾患		
8	一般臨床Ⅱ8	代謝疾患		
9	一般臨床Ⅱ9	内分泌疾患		
10	一般臨床Ⅱ10	血液・造血器疾患		
11	一般臨床Ⅱ11	腎・尿路疾患		
12	一般臨床Ⅱ12	神経疾患		
13	一般臨床Ⅱ13	感染症		
14	一般臨床Ⅱ14	リウマチ・膠原病・アレルギー		
15	一般臨床Ⅱ15	生活習慣病とその予防		
16	一般臨床Ⅱ16	期末試験		
17	一般臨床Ⅱ17	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔道整復術の適応 (柔道整復術の適応)		柔道整復学科/3年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	富田 秀司
授業の概要				
柔道整復術の適応と非適応を知り医師との連携を考えることが出来るようにすることを目的とする				
授業終了時の到達目標				
整形外科学や一般臨床医学また、外科学等の教科が、関連することを理解し臨床に応用とすることをめざす。				
回	テーマ	内容		
1	柔道整復術の適応 1	柔道整復術の適応 医療面接にて		
2	柔道整復術の適応 2	柔道整復術の適応 診察にて		
3	柔道整復術の適応 3	柔道整復術の適応 診察にて		
4	柔道整復術の適応 4	柔道整復術の適応 診察にて		
5	柔道整復術の適応 5	柔道整復術の適応 診察にて		
6	柔道整復術の適応 6	柔道整復術の適応 画像診断にて		
7	柔道整復術の適応 7	柔道整復術の適応 画像診断にて		
8	柔道整復術の適応 8	柔道整復術の適応 画像診断にて		
9	柔道整復術の適応 9	柔道整復術の適応		
10	柔道整復術の適応 10	柔道整復術の適応		
11	柔道整復術の適応 11	柔道整復術の適応		
12	柔道整復術の適応 12	柔道整復術の適応		
13	柔道整復術の適応 13	柔道整復術の適応		
14	柔道整復術の適応 14	期末試験		
15	柔道整復術の適応 15	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
柔道整復学の適応		出席率	10.0%	
		授業態度	10.0%	
		期末試験	80.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔道実技Ⅲ（保健医療福祉と柔道整復の理念）		柔道整復学科/3年	2023/通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	1単位（45時間）	必須	大久保 博臣
授業の概要				
認定実技審査に向けた総仕上げをし、全員合格できるように授業をすすめる。				
授業終了時の到達目標				
「投げの形」を習得する。 実技認定試験（柔道）合格を目標とする。				
回	テーマ	内容		
1	柔道実技Ⅲ1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	柔道実技Ⅲ2	受身・礼法		
3	柔道実技Ⅲ3	受身・礼法・投の形（手わざ）		
4	柔道実技Ⅲ4	受身・礼法・投の形（手わざ）		
5	柔道実技Ⅲ5	受身・礼法・投の形（手わざ）		
6	柔道実技Ⅲ6	受身・礼法・投の形（手わざ）		
7	柔道実技Ⅲ7	受身・礼法・投の形（手わざ）		
8	柔道実技Ⅲ8	受身・礼法・投の形（腰わざ）		
9	柔道実技Ⅲ9	受身・礼法・投の形（腰わざ）		
10	柔道実技Ⅲ10	受身・礼法・投の形（腰わざ）		
11	柔道実技Ⅲ11	受身・礼法・投の形（腰わざ）		
12	柔道実技Ⅲ12	受身・礼法・投の形（腰わざ）		
13	柔道実技Ⅲ13	受身・礼法・投の形（足わざ）		
14	柔道実技Ⅲ14	受身・礼法・投の形（足わざ）		
15	柔道実技Ⅲ15	受身・礼法・投の形（足わざ）		

回	テ ー マ	内 容		
16	柔道実技Ⅲ16	受身・礼法・投の形（足わざ）		
17	柔道実技Ⅲ17	受身・礼法・投の形（足わざ）		
18	柔道実技Ⅲ18	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）		
19	柔道実技Ⅲ19	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取		
20	柔道実技Ⅲ20	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取		
21	柔道実技Ⅲ21	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取		
22	柔道実技Ⅲ22	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取		
23	柔道実技Ⅲ23	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
関係法規（保健医療福祉と 柔道整復の理念）		柔道整復学科/3年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位（68時間）	必須	新川 慶
授業の概要				
柔道整復師として必要な法的知識、その教育を通して柔道整復師としての倫理観の徹底、順法精神の涵養等、医事関係法規を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
法を通して、柔道整復とは何かを考える力を養う。				
回	テーマ	内容		
1	関係法規 1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	関係法規 2	序論 法の意義		
3	関係法規 3	柔道整復師法とその関連内容 総則		
4	関係法規 4	柔道整復師法とその関連内容 免許		
5	関係法規 5	柔道整復師法とその関連内容 免許		
6	関係法規 6	柔道整復師法とその関連内容 免許		
7	関係法規 7	柔道整復師法とその関連内容 柔道整復師国家試験		
8	関係法規 8	柔道整復師法とその関連内容 業務		
9	関係法規 9	柔道整復師法とその関連内容 業務		
10	関係法規 10	柔道整復師法とその関連内容 施術所		
11	関係法規 11	柔道整復師法とその関連内容 雑則		
12	関係法規 12	柔道整復師法とその関連内容 罰則		
13	関係法規 13	柔道整復師法とその関連内容 罰則		
14	関係法規 14	柔道整復師法とその関連内容 指定登録機関及び指定試験機関		
15	関係法規 15	柔道整復師法とその関連内容 附則		



回	テ ー マ	内 容		
16	関係法規 16	前期期末試験		
17	関係法規 17	解答・解説		
18	関係法規 18	関係法規 医療従事者の資格法		
19	関係法規 19	関係法規 医療従事者の資格法		
20	関係法規 20	関係法規 医療従事者の資格法		
21	関係法規 21	関係法規 医療法		
22	関係法規 22	関係法規 医療法		
23	関係法規 23	関係法規 医療法		
24	関係法規 24	関係法規 社会保険関係法規		
25	関係法規 25	関係法規 社会保険関係法規		
26	関係法規 26	関係法規 社会保険関係法規		
27	関係法規 27	関係法規 社会保険関係法規		
28	関係法規 28	関係法規 社会保険関係法規		
29	関係法規 29	関係法規 社会保険関係法規		
30	関係法規 30	関係法規 社会保険関係法規		
31	関係法規 31	関係法規 社会保険関係法規		
32	関係法規 32	関係法規 社会保険関係法規		
33	関係法規 33	後期期末試験		
34	関係法規 34	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 関係法規		出席率	10.0%	
		授業態度	10.0%	
		期末試験	80.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅲ (基礎柔道整復学)		柔道整復学科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位 (34時間)	必須	関矢 政之
授業の概要				
1・2年生で学んだ柔道整復理論基礎の復習を行い知識の整理と共に深く学ぶことを目指す。外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む。				
授業終了時の到達目標				
国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内容		
1	基礎柔道整復学Ⅲ1	骨折の保存療法の経過および治癒の判定 1		
2	基礎柔道整復学Ⅲ2	骨折の保存療法の経過および治癒の判定 2		
3	基礎柔道整復学Ⅲ3	骨折の保存療法の経過および治癒の判定 3		
4	基礎柔道整復学Ⅲ4	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定 1		
5	基礎柔道整復学Ⅲ5	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定 2		
6	基礎柔道整復学Ⅲ6	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定 3		
7	基礎柔道整復学Ⅲ7	捻挫の保存療法の経過および治癒の判定		
8	基礎柔道整復学Ⅲ8	挫傷の保存療法の経過および治癒の判定		
9	基礎柔道整復学Ⅲ9	骨の損傷：骨折の合併症		
10	基礎柔道整復学Ⅲ10	骨の損傷：小児骨折・高齢者骨折の特徴		
11	基礎柔道整復学Ⅲ11	骨の損傷：骨折の癒合日数、骨折の予後		
12	基礎柔道整復学Ⅲ12	関節の損傷：関節の構造と形態		
13	基礎柔道整復学Ⅲ13	関節の損傷：関節損傷の概説		
14	基礎柔道整復学Ⅲ14	関節の損傷：関節構成組織損傷		
15	基礎柔道整復学Ⅲ15	関節の損傷：脱臼		
16	基礎柔道整復学Ⅲ16	期末試験		
17	基礎柔道整復学Ⅲ17	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
総合基礎柔道整復学(基礎柔道整復学)		柔道整復学科/3年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位(34時間)	必須	関矢 政之
授業の概要				
最も多く遭遇する骨折や脱臼軟部組織損傷を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内容		
1	総合基礎柔道整復学1	骨損・脱臼・軟損・包帯・後療法		
2	総合基礎柔道整復学2	頭部・顔面骨折、胸部骨折、脊椎骨折		
3	総合基礎柔道整復学3	顎関節脱臼、頭部・顔面軟損、脊椎軟損		
4	総合基礎柔道整復学4	鎖骨骨折、肩甲骨骨折		
5	総合基礎柔道整復学5	上腕骨骨折、前腕骨骨折		
6	総合基礎柔道整復学6	手根骨・手指骨折		
7	総合基礎柔道整復学7	肩関節脱臼、肘関節脱臼		
8	総合基礎柔道整復学8	手根骨脱臼、中手骨・手指脱臼		
9	総合基礎柔道整復学9	上肢軟部組織損傷		
10	総合基礎柔道整復学10	骨盤骨骨折、大腿骨骨折、膝蓋骨骨折		
11	総合基礎柔道整復学11	下腿骨骨折、足根骨骨折、中足骨・足指骨折		
12	総合基礎柔道整復学12	股関節脱臼、膝部脱臼、足部・足根骨・足指脱臼		
13	総合基礎柔道整復学13	股部軟部組織損傷、足部軟部組織損傷		
14	総合基礎柔道整復学14	下腿部軟部組織損傷、足部軟部組織損傷		
15	総合基礎柔道整復学15	総復習		
16	総合基礎柔道整復学16	期末試験		
17	総合基礎柔道整復学17	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅴ（臨床柔道整復学）		柔道整復学科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位（68時間）	必須	新川 慶
授業の概要				
骨折・脱臼・捻挫・打撲の治療の参考にするための超音波画像を学ぶ。				
柔道整復術適応の臨床的判定・医療画像の理解を含む				
授業終了時の到達目標				
国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内容		
1	臨床柔道整復学Ⅴ	ガイダンス（超音波画像とは）、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	臨床柔道整復学Ⅴ	法律上の問題		
3	臨床柔道整復学Ⅴ	X線、MRI、超音波診断装置の読影方法		
4	臨床柔道整復学Ⅴ	上肢の機能解剖		
5	臨床柔道整復学Ⅴ	前腕の超音波観察		
6	臨床柔道整復学Ⅴ	前腕の超音波観察		
7	臨床柔道整復学Ⅴ	手指の超音波観察		
8	臨床柔道整復学Ⅴ	手指の超音波観察		
9	臨床柔道整復学Ⅴ	上腕の超音波観察		
10	臨床柔道整復学Ⅴ	上腕の超音波観察		
11	臨床柔道整復学Ⅴ	上腕の超音波観察		
12	臨床柔道整復学Ⅴ	肩部の超音波観察		
13	臨床柔道整復学Ⅴ	肩部の超音波観察		
14	臨床柔道整復学Ⅴ	胸部の超音波観察		
15	臨床柔道整復学Ⅴ	足関節の機能解剖		
16	臨床柔道整復学Ⅴ	前期期末試験		
17	臨床柔道整復学Ⅴ	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅵ（臨床柔道整復学）		柔道整復学科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位（68時間）	必須	関矢 政之
授業の概要				
柔道整復師が施術所で使用する物理療法機器等の取り扱いを学び、安全に人体に使用できるようになる				
授業終了時の到達目標				
国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内容		
1	臨床柔道整復学Ⅵ1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	臨床柔道整復学Ⅵ2	電気療法機器の取り扱い方		
3	臨床柔道整復学Ⅵ3	電気療法機器の取り扱い方		
4	臨床柔道整復学Ⅵ4	電気療法機器の取り扱い方		
5	臨床柔道整復学Ⅵ5	寒冷療法機器の取り扱い方		
6	臨床柔道整復学Ⅵ6	寒冷療法機器の取り扱い方		
7	臨床柔道整復学Ⅵ7	寒冷療法機器の取り扱い方		
8	臨床柔道整復学Ⅵ8	光線療法機器の取り扱い方		
9	臨床柔道整復学Ⅵ9	光線療法機器の取り扱い方		
10	臨床柔道整復学Ⅵ10	光線療法機器の取り扱い方		
11	臨床柔道整復学Ⅵ11	温熱療法機器の取り扱い方		
12	臨床柔道整復学Ⅵ12	温熱療法機器の取り扱い方		
13	臨床柔道整復学Ⅵ13	温熱療法機器の取り扱い方		
14	臨床柔道整復学Ⅵ14	脊椎牽引療法機器の取り扱い方		
15	臨床柔道整復学Ⅵ15	脊椎牽引療法機器の取り扱い方		
16	臨床柔道整復学Ⅵ16	前期期末試験		
17	臨床柔道整復学Ⅵ17	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔整実技Ⅳ（柔道整復実技）		柔道整復学科/3年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	2単位（68時間）	必須	大久保 博臣
授業の概要				
柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
授業終了時の到達目標				
臨床現場に即応できる技術を踏まえ国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内容		
1	柔整実技Ⅳ1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	柔整実技Ⅳ2	高齢者の整形外科的損傷と予防 足部の障害		
3	柔整実技Ⅳ3	高齢者の整形外科的損傷と予防 大腿部・下腿部の障害		
4	柔整実技Ⅳ4	高齢者の整形外科的損傷と予防 腰部の障害		
5	柔整実技Ⅳ5	高齢者の整形外科的損傷と予防 肩関節の障害		
6	柔整実技Ⅳ6	高齢者の整形外科的損傷と予防 肘関節の障害		
7	柔整実技Ⅳ7	高齢者の整形外科的損傷と予防 手関節の障害		
8	柔整実技Ⅳ8	競技者の整形外科的損傷と予防、スポーツ障害		
9	柔整実技Ⅳ9	競技者の整形外科的損傷と予防、足部の障害		
10	柔整実技Ⅳ10	競技者の整形外科的損傷と予防、下腿部の障害		
11	柔整実技Ⅳ11	競技者の整形外科的損傷と予防、大腿部の障害		
12	柔整実技Ⅳ12	競技者の整形外科的損傷と予防、腰部の障害		
13	柔整実技Ⅳ13	競技者の整形外科的損傷と予防、肩関節の障害		
14	柔整実技Ⅳ14	競技者の整形外科的損傷と予防、肘関節の障害		
15	柔整実技Ⅳ15	競技者の整形外科的損傷と予防、手関節の障害		

回	テ ー マ	内 容		
16	柔整実技IV16	前期期末試験		
17	柔整実技IV17	解答・解説		
18	柔整実技IV18	下肢の脱臼 復習		
19	柔整実技IV19	股関節脱臼 復習		
20	柔整実技IV20	膝関節脱臼 復習		
21	柔整実技IV21	膝蓋骨脱臼 復習		
22	柔整実技IV22	距腿関節脱臼 復習		
23	柔整実技IV23	リスフラン関節脱臼復習		
24	柔整実技IV24	ショパール関節脱臼復習		
25	柔整実技IV25	足指脱臼復習		
26	柔整実技IV26	肘関節脱臼復習		
27	柔整実技IV27	肘関節脱臼 復習		
28	柔整実技IV28	手関節部脱臼復習		
29	柔整実技IV29	手関節部脱臼復習		
30	柔整実技IV30	手指部脱臼復習		
31	柔整実技IV31	臨床実習前試験		
32	柔整実技IV32	臨床実習前試験		
33	柔整実技IV33	後期期末試験		
34	柔整実技IV34	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔整実技Ⅴ（柔道整復実技）		柔道整復学科/3年	2023/前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	17回	1単位（34時間）	必須	安次嶺 慎一郎
授業の概要				
柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
授業終了時の到達目標				
臨床現場に即応できる技術を踏まえ国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内容		
1	柔整実技Ⅴ1	鎖骨骨折		
2	柔整実技Ⅴ2	上腕骨外科頸骨折、肩関節脱臼		
3	柔整実技Ⅴ3	上腕骨顆上骨折、肘関節脱臼		
4	柔整実技Ⅴ4	コーレス骨折		
5	柔整実技Ⅴ5	舟状骨骨折		
6	柔整実技Ⅴ6	手指骨折		
7	柔整実技Ⅴ7	肘内障		
8	柔整実技Ⅴ8	肩脱臼、肩鎖関節脱臼		
9	柔整実技Ⅴ9	膝蓋骨脱臼		
10	柔整実技Ⅴ10	大腿骨頸部骨折		
11	柔整実技Ⅴ11	中足骨骨折		
12	柔整実技Ⅴ12	肩部軟部組織損傷		
13	柔整実技Ⅴ13	肩部軟部組織損傷		
14	柔整実技Ⅴ14	下腿軟部組織損傷		
15	柔整実技Ⅴ15	足部軟部組織損傷		
16	柔整実技Ⅴ16	前期期末試験		
17	柔整実技Ⅴ17	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	



作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔整実技VI (柔道整復実技)		柔道整復学科/3年	2023/通年	実技
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	51回	3単位 (102時間)	必須	大久保 博臣 接骨院にて従事
授業の概要				
柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
授業終了時の到達目標				
臨床現場に即応できる技術を踏まえ国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内 容		
1	柔整実技VI1	鎖骨骨折概説と特徴		
2	柔整実技VI2	鎖骨骨折整復		
3	柔整実技VI3	鎖骨骨折整復		
4	柔整実技VI4	鎖骨骨折整復		
5	柔整実技VI5	鎖骨骨折整復		
6	柔整実技VI6	上腕骨外科頸骨折概説と特徴		
7	柔整実技VI7	上腕骨外科頸骨折整復		
8	柔整実技VI8	上腕骨外科頸骨折整復		
9	柔整実技VI9	上腕骨外科頸骨折整復		
10	柔整実技VI10	上腕骨外科頸骨折整復		
11	柔整実技VI11	コーレス骨折概要と特徴		
12	柔整実技VI12	コーレス骨折整復		
13	柔整実技VI13	コーレス骨折整復		
14	柔整実技VI14	コーレス骨折整復		
15	柔整実技VI15	コーレス骨折整復		
16	柔整実技VI16	肩関節脱臼概説と特徴		
17	柔整実技VI17	肩関節脱臼整復		
18	柔整実技VI18	肩関節脱臼整復		
19	柔整実技VI19	肩関節脱臼整復		
20	柔整実技VI20	肩関節脱臼整復		
21	柔整実技VI21	肩鎖関節脱臼概説と特徴		
22	柔整実技VI22	肩鎖関節脱臼整復		
23	柔整実技VI23	肩鎖関節脱臼整復		

回	テ ー マ	内 容		
24	柔整実技 VI24	肩鎖関節脱臼整復		
25	柔整実技 VI25	肩鎖関節脱臼整復		
26	柔整実技 VI26	肘関節脱臼概説と特徴		
27	柔整実技 VI27	肘関節脱臼整復		
28	柔整実技 VI28	肘関節脱臼整復		
29	柔整実技 VI29	肘関節脱臼整復		
30	柔整実技 VI30	肘内障概説と特徴		
31	柔整実技 VI31	肘内障整復		
32	柔整実技 VI32	肘内障整復		
33	柔整実技 VI33	肘内障整復		
34	柔整実技 VI34	期末試験		
35	柔整実技 VI35	鎖骨骨折固定		
36	柔整実技 VI36	鎖骨骨折固定		
37	柔整実技 VI37	外科頸骨折固定		
38	柔整実技 VI38	外科頸骨折固定		
39	柔整実技 VI39	コーレス骨折固定		
40	柔整実技 VI40	コーレス骨折固定		
41	柔整実技 VI41	肩脱臼固定		
42	柔整実技 VI42	肩脱臼固定		
43	柔整実技 VI43	肩鎖関節脱臼固定		
44	柔整実技 VI44	肩鎖関節脱臼固定		
45	柔整実技 VI45	肘脱臼固定		
46	柔整実技 VI46	肘脱臼固定		
47	柔整実技 VI47	総復習		
48	柔整実技 VI48	総復習		
49	柔整実技 VI49	総復習		
50	柔整実技 VI50	期末試験		
51	柔整実技 VI51	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔整実技Ⅶ(柔道整復実技)		柔道整復学科/3年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	51回	3単位(102時間)	必須	大久保 博臣
授業の概要				
柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
授業終了時の到達目標				
臨床現場に即応できる技術を踏まえ国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内容		
1	柔整実技Ⅶ1	腓骨損傷検査法		
2	柔整実技Ⅶ2	腓骨損傷検査法		
3	柔整実技Ⅶ3	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法		
4	柔整実技Ⅶ4	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法		
5	柔整実技Ⅶ5	大腿部肉離れ検査法		
6	柔整実技Ⅶ6	大腿部肉離れ検査法		
7	柔整実技Ⅶ7	下腿三頭筋損傷検査法		
8	柔整実技Ⅶ8	下腿三頭筋損傷検査法		
9	柔整実技Ⅶ9	アキレス腱断裂検査法		
10	柔整実技Ⅶ10	アキレス腱断裂検査法		
11	柔整実技Ⅶ11	足部捻挫検査法		
12	柔整実技Ⅶ12	足部捻挫検査法		
13	柔整実技Ⅶ13	膝内側側副靭帯損傷検査法		
14	柔整実技Ⅶ14	膝内側側副靭帯損傷検査法		
15	柔整実技Ⅶ15	膝前十字靭帯損傷検査法		

回	テ ー マ	内 容
16	柔整実技Ⅶ16	膝前十字靭帯損傷検査法
17	柔整実技Ⅶ17	膝内側半月板損傷検査法
18	柔整実技Ⅶ18	膝内側半月板損傷検査法
19	柔整実技Ⅶ19	膝絆創膏固定
20	柔整実技Ⅶ20	膝絆創膏固定
21	柔整実技Ⅶ21	足関節局所副子固定
22	柔整実技Ⅶ22	足関節局所副子固定
23	柔整実技Ⅶ23	足絆創膏固定
24	柔整実技Ⅶ24	アキレス腱断裂固定
25	柔整実技Ⅶ25	アキレス腱断裂固定
26	柔整実技Ⅶ26	さらし固定厚紙副子含む 肋骨骨折
27	柔整実技Ⅶ27	さらし固定厚紙副子含む 肋骨骨折
28	柔整実技Ⅶ28	ミッテルドルフ三角副子固定
29	柔整実技Ⅶ29	ミッテルドルフ三角副子固定
30	柔整実技Ⅶ30	アルフェンス固定指部
31	柔整実技Ⅶ31	アルフェンス固定指部
32	柔整実技Ⅶ32	下腿骨骨折クラーメル固定
33	柔整実技Ⅶ33	下腿骨骨折クラーメル固定
34	柔整実技Ⅶ34	期末試験
35	柔整実技Ⅶ35	骨折部の整復復習

回	テ ー マ	内 容		
36	柔整実技Ⅶ36	骨折部の整復復習		
37	柔整実技Ⅶ37	脱臼部の整復復習		
38	柔整実技Ⅶ38	脱臼部の整復復習		
39	柔整実技Ⅶ39	軟部組織損傷(上肢) 検査法		
40	柔整実技Ⅶ40	軟部組織損傷(膝部) 検査法		
41	柔整実技Ⅶ41	軟部組織損傷(下腿・足部) 検査法		
42	柔整実技Ⅶ42	絆創膏固定復習		
43	柔整実技Ⅶ43	絆創膏固定復習		
44	柔整実技Ⅶ44	固定法復習		
45	柔整実技Ⅶ45	整復法復習		
46	柔整実技Ⅶ46	軟部組織損傷検査法復習		
47	柔整実技Ⅶ47	軟部組織損傷検査法復習		
48	柔整実技Ⅶ48	総復習		
49	柔整実技Ⅶ49	総復習		
50	柔整実技Ⅶ50	期末試験		
51	柔整実技Ⅶ51	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅲ（臨床実習）		柔道整復学科/3年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	1単位（45時間）	必須	外部実習
授業の概要				
柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。				
回	テーマ	内容		
1	臨床実習Ⅲ1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	臨床実習Ⅲ2	付属接骨院での実習		
3	臨床実習Ⅲ3	付属接骨院での実習		
4	臨床実習Ⅲ4	付属接骨院での実習		
5	臨床実習Ⅲ5	付属接骨院での実習		
6	臨床実習Ⅲ6	付属接骨院での実習		
7	臨床実習Ⅲ7	付属接骨院での実習		
8	臨床実習Ⅲ8	付属接骨院での実習		
9	臨床実習Ⅲ9	付属接骨院での実習		
10	臨床実習Ⅲ10	付属接骨院での実習		
11	臨床実習Ⅲ11	付属接骨院での実習		
12	臨床実習Ⅲ12	付属接骨院での実習		
13	臨床実習Ⅲ13	付属接骨院での実習		
14	臨床実習Ⅲ14	付属接骨院での実習		
15	臨床実習Ⅲ15	付属接骨院での実習		

回	テ ー マ	内 容		
16	臨床実習Ⅲ16	付属接骨院での実習		
17	臨床実習Ⅲ17	付属接骨院での実習		
18	臨床実習Ⅲ18	付属接骨院での実習		
19	臨床実習Ⅲ19	付属接骨院での実習		
20	臨床実習Ⅲ20	付属接骨院での実習		
21	臨床実習Ⅲ21	付属接骨院での実習		
22	臨床実習Ⅲ22	期末試験		
23	臨床実習Ⅲ23	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編)		期末試験	80.0%	
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (実技編)		出席率	10.0%	
		授業態度	10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅳ（臨床実習）		柔道整復学科/3年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	1単位（45時間）	必須	外部実習

## 授業の概要

柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。  
また、接骨院だけでなく介護施設や病院での働き方を学ぶ。

## 授業終了時の到達目標

柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。  
また、接骨院だけでなく介護施設や病院での働き方を学ぶ。

回	テーマ	内容
1	臨床実習Ⅳ	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
3	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
4	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
5	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
6	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
7	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
8	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
9	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
10	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
11	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
12	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
13	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習
14	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習 付属接骨院での実習
15	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習



回	テ ー マ	内 容		
16	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習		
17	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習		
18	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習		
19	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習		
20	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習		
21	臨床実習Ⅳ	付属接骨院での実習		
22	臨床実習Ⅳ	期末試験		
23	臨床実習Ⅳ	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
総合演習3		柔道整復学科/3年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	宮崎 刀一
授業の概要				
接骨院でよく遭遇する外傷と鑑別法、治療法を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う				
回	テーマ	内容		
1	総合演習Ⅲ1	国家試験対策		
2	総合演習Ⅲ2	国家試験対策		
3	総合演習Ⅲ3	国家試験対策		
4	総合演習Ⅲ4	国家試験対策		
5	総合演習Ⅲ5	国家試験対策		
6	総合演習Ⅲ6	国家試験対策		
7	総合演習Ⅲ7	国家試験対策		
8	総合演習Ⅲ8	国家試験対策		
9	総合演習Ⅲ9	国家試験対策		
10	総合演習Ⅲ10	国家試験対策		
11	総合演習Ⅲ11	国家試験対策		
12	総合演習Ⅲ12	国家試験対策		
13	総合演習Ⅲ13	国家試験対策		
14	総合演習Ⅲ14	国家試験対策		
15	総合演習Ⅲ15	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
2021 & 2022国家試験過去問題集(明治東洋医学院編集委員会編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	